

# 茶病虫害防除情報

令和5年5月8日

## 【第 19 号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

夏茶の品質向上・安定生産のための

### 二番茶芽生育期の病虫害防除対策

ゴールデンウィークも終わり、花咲き誇り新緑輝く初夏らしい気候になりました。一番茶の生産は遅場産地でも終盤となり、早場産地では二番茶芽の萌芽生育期も近まりました。今回は夏茶の品質や収量に影響する二番茶芽生育期の病虫害防除対策についてお知らせします。

#### ☆ 病虫害の発生概要

##### ◎ 炭疽病・・・「並」 黒葉腐病・・・「注意」

昨年秋芽生育期発病の越冬病葉はやや少ないでしたが、一番茶芽生育期は比較的に、降雨日が多かったため伝染源として活力の高い一番茶摘採残葉の新発病葉数はやや多い状態になっています。また二番茶芽の生育期は梅雨入りも予想されますので、感染の機会が多くなり、一般に発生は多くなります。黒葉腐病も降雨が続くと、発生の恐れがあり、注意が必要です。

##### ◎ チャノミドリヒメヨコバイ・・・「やや多」 チャノキイロアザミウマ・・・「並」

これから発生が多くなる時期になります。一番茶期までの発生は並発生でしたが、その後気温が上り、晴天気象のため両害虫ともやや増加しています。梅雨入りが遅れ、晴天傾向の天気が続くと多発生し、二番茶芽に被害が出る恐れもあります。

##### ◎ チャノホソガ・・・「発生時期 並」 「発生量 並」

二番茶以降に発生が多くなり、この数年南薩地域の早場産地で水赤を生じる被害がでました。一番茶残葉の三角巻葉は平年並みの状況です。二番茶萌芽～1葉期頃に産卵、葉潜り状況を観察し防除要否を判断します。発生時期と新芽生育期が合う早生品種園で発生が多くなりそうです。

#### ☆ 基本的防除対策

この時期は品種、芽の生育状態、病虫害の発生状況に対応し、基幹防除になります。いずれの病虫害も萌芽～1葉期頃が散布適期です。「やぶきた」園などは混用散布により病害も同時防除します。また、この時期は萌芽から摘採までの期間が短く、気温の上昇で芽の生育が早まることがあるので使用基準の摘採7～10日前に使用できる薬剤を選択し、適期散布します。

また、最近、一部薬剤では薬剤耐性菌や害虫の感受性低下が地域によって生じていますので、地区の栽培暦に採用されている薬剤で防除します。

##### ◎ 炭疽病 黒葉腐病・・・降雨が多いときは注意 降雨前の予防防除が基本

炭疽病は特に「やぶきた」園などは梅雨入りで発生が多くなりますので防除が必要です。摘採葉への発病葉混入を防ぎ、摘採残葉として残る下位1～2葉を守るよう萌芽～1葉期の降雨前にダニール1000での予防防除が基本です。特に伝染源病葉が多く、雨天後散布になるような場合や摘採を遅らせるドリンク茶栽培園ではダニール1000とインダーフロアブルを低濃度で混用散布すると効果的に防除できます。黒葉腐病は樹勢が良く、芽の詰った園や「ゆたかみどり」などの品種で、特に被覆園に発生しやすいので、萌芽期～1葉期頃にダニール1000を予防散布しておきます。

◎ **チャノミドリヒメヨコバイ** **チャノキイロアザミウマ**……雨が少ないと多くなる

梅雨入りが遅れ、晴天が続くと多くなります。芽の生育初期に加害を受けると被害が大きくなるので萌芽期頃の防除が最適です。チャノホガ、炭疽病などと同時防除する場合は萌芽～1葉期に防除するとよいでしょう。ネコチノイト系薬剤など一部薬剤で感受性が低下していますのでウララ DF、エクシレル SE など地区栽培暦採用薬剤で防除します。

◎ **チャノホソガ**……品質への影響大

1葉期頃に産卵・幼虫の葉潜り状況をみて防除を判断します。多くみられる園では1葉期頃に防除します。2～3葉期以降に産卵がみられ、10日以内に摘採予定の園では被害は回避できますので防除の必要はありません。これまで使用されてきた IGR 系剤の脱皮阻害剤、(ノーモルト、カスケード)、脱皮促進剤 (ファルコン) およびジミアイト系剤(サムコル、エクシレル、テップソ)で感受性が低下している地域ではディアナ SC など地区の栽培暦採用薬剤で防除します。

☆ **二番茶芽生育期の病虫害防除法**

太字は地区茶栽培暦採用薬剤

病虫害名	薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用時期・回数	使用上の留意事項
炭疽病 (黒葉腐病) (一般園)	<b>ダコニール 1000 (全地区)</b>	<b>700～1000</b>	10 日前 1 回	萌芽～1 葉期の降雨前に散布する。
	<i>ダコニール 1000+インダ-フロアブル</i>	1000 + 8000	10 日前 1 回	混用散布は降雨持続後の応急対策。
チャノキイロアザミウマ	ウララ DF (その他)	<b>1000～2000</b>	7 日前 1 回	薬剤抵抗性を考慮し、同一系統薬剤使用は年 1 回とする。
チャノミドリヒメヨコバイ	エクシレル SE (曾於)	<b>2000</b>	7 日前 1 回	
チャノホソガ (サカカハマキ)	<b>ディアナ SC (南薩)</b>	<b>2500～5000</b>	前日 1 回	1 葉期頃が散布適期である。
	<b>サムコルフロアブル 10(北薩)</b>	<b>2000～4000</b>	3 日前 1 回	葉裏への産卵・幼虫の葉潜り状況を確認し、防除する。
	エクシレル SE (曾於)	<b>2000</b>	7 日前 1 回	
	カスケード乳剤 (日 始 肝)	<b>4000</b>	7 日前 2 回	薬剤抵抗性発現の地域があるので地区栽培暦採用剤で防除する。
	ノーモルト乳剤 (種子島)	2000～4000	7 日前 1 回	
チャノキイロアザミウマ	ウララ DF+ <b>ディアナ SC (南薩)</b>	<b>1000 + 5000</b>	7 日前 1 回	下記の 3 種混用散布は可能である。 <i>ダコニール + ウララ + ディアナ</i> <i>ダコニール + ウララ + 拡ル</i> <i>ダコニール + ウララ + ノーモルト</i> <i>ダコニール + ウララ + カスケード</i>
チャノミドリヒメヨコバイ	ウララ DF+サムコルフロアブル (北薩)	<b>1000+4000</b>	7 日前 1 回	
チャノホソガ	ウララ DF+ノーモルト乳剤 (種子島)	1000+4000	7 日前 1 回	
(同時防除)	ウララ DF+カスケード乳剤 (始 肝)	<b>1000+4000</b>	7 日前 1 回	
	エクシレル SE (曾於)	<b>2000</b>	7 日前 1 回	
炭疽病 (有機栽培園) (輸出茶栽培園)	<b>クプロシールド (南薩 北薩)</b>	<b>500～700</b>	前日 ー	降雨の多い時は 2 回散布する。 防除効果はやや低い。
	Z ボルドー	400	7 日前 ー	
	ムッシュボルドー	500～1000	7 日前 ー	
炭疽病 (ドリンク茶栽培)	<i>ダコニール 1000+インダ-フロアブル</i>	1000 + 8000	10 日前 1 回	混用散布で 1～2 葉期頃に散布する。
	<i>ダコニール 1000+オトリ-ワンフロアブル</i>	1000 + 3000	10 日前 1 回	
チャノホソガ (有機栽培園) (輸出茶栽培園)	エスマルク DF (BT 剤)	1000	7 日前 ー	葉縁巻葉期に散布する。 三角巻葉減少効果は低いが虫糞を抑制する。 卵・葉潜り幼虫期散布の効果は低い。
	レピ クリーン DF (BT 剤)	500～1000	前日 ー	
	チューンアップ 顆粒水和剤 (BT 剤)	2000	前日 ー	
	サブリアフロアブル (BT 剤)	1000	7 日前 ー	

二番茶期に発生する病害虫



チャノミドリヒメヨコバイ被害芽



チャノキオアザミヤ被害葉



チャノホカ 三角巻葉  
(巻葉内の虫糞により品質 (水色) 悪化)



チャノホカ 葉縁巻葉



チャノホカ 卵

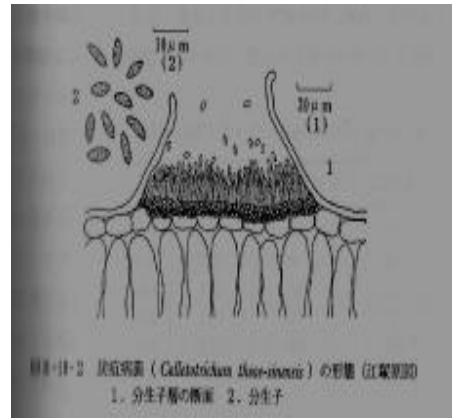


潜葉幼虫

(卵～潜葉幼虫期の薬剤防除効果高い)



摘採残葉に多発生した炭疽病



炭疽病菌の分生子形成図と分生子